

「ことばの遅れ」は、
いずれ追いつく？
見逃していませんか？
子どものことばの障害



発達性言語症： DLDの理解とアプローチ

早期のことばの遅れは言語発達障害の症状の一つです。4～5歳で改善されない場合、近年、発達性言語症（DLD：Developmental Language Disorder）と診断されるようになりました。DLDは、知的発達・社会性発達の問題や難聴など明らかな原因がないため、言語習得やコミュニケーションに持続的な苦手さを抱えていても周囲に認識されず、さらに就学後、学習や適応に問題を生じるようになることが多いことが分かっています。

本セミナーでは、DLDとことばの遅れとの違いや障害特性を理解し、アセスメントの方法やポイント、支援の実際について、最新の知見をもとに多職種が連携して取り組むヒントを提供します。

《プログラム》

第1部：DLDとは何か？— 子どもの言語の問題とは

田中裕美子

（大阪芸術大学・NPO法人どこでもことばドア代表理事）

第2部：DLDの実例 — 事例で学ぶDLD

2025年

日時

10月13日（月）

10:30-12:00

Zoomウェビナーにて実施
アーカイブ配信あり！

参加費：無料

保育、教育、医療、福祉など対人支援に携わるすべての専門職の皆様のご参加をお待ちしております！

申込〆切：10/1（水）



当日視聴申込

アーカイブ視聴

主催：NPO法人どこでもことばドア

共催：日本コミュニケーション障害学会言語発達障害研究分科会

本セミナーは日本財団の助成金を受け開催いたします。

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION